旧石器ハテナ館だより

尖頭器（せんとうき）

尖頭器とは、主に旧石器時代に使われた狩猟具です。

旧石器ハテナ館
（史跡田名向原遺跡 旧石器時代学習館）

神奈川県相模原市中央区
田名塩田 3- 23 - 11
Tel 042 - 777 - 6371

平成 26 年 3 月 19 日
【第 22 号】

旧石器ハテナ館 作品展

平成26年2月20日～28日

　１年間の活動の発表として２月末に作品展を行いました。作品展では事業紹介シートや出張授業による体験学習の作品、定例体験教室の作品、協力団体である土器づくりの会の土器等を展示しました。
　また、併せて県の文化財保護ポスター事業への応募作品も展示しました。

↑　イベント紹介
勾玉・埴輪作り等の定例体験教室と旧石器ハテナ館まつりを始め各種イベントを、写真を中心にして紹介したコーナーです。

↑　土器が勢揃い
「土器づくりの会」の方々が思いを込めて製作したすばらしい土器です。

↑　「勾玉」がずらり!!
出張授業で作成した、夢の丘小学校と緑台小学校の児童の作品です。きれいに仕上がっています。

←　文化財保護ポスター
「わたしたちの文化財」をテーマにしたポスターと「世界遺産登録をめざす鎌倉」をテーマにした中学生によるポスターです。

平成26年度　年間行事計画

※詳細は広報さがみはらやホームページに掲載されます。行事内容や日程は変更となる場合がありますのでご了承下さい。

月	定例体験教室	イベント	講演会･連続講座他
4	20(日)黒曜石で石器作り		
5	18(日)河原石で石器作り	31(土)文化財探訪	
6	15(日)土器作り		21(土)講演会
7	20(日)弓矢作り	21(月)昆虫観察会	
8	17(日)勾玉作り	24(日)八瀬川探検と魚観察	
9	21(日)土器作り	13(土)旧石器ハテナ館まつり	
10	19(日)弓矢作り	25(土)バスツアー	11(土)講演会
11	16(日)黒曜石で石器作り	8 (土)文化財探訪	
12	21(日)勾玉作り		13(土)講演会
1	18(日)埴輪作り		10(土)連続講座①　24(土)連続講座②
2	15(日)編布作り	2/21(土)～ 3/8(日)	7 (土)連続講座③
3	15(日)弓矢作り	ミニ展示	21(土)講演会

講演会

相模野台地の成り立ち

講師　久保純子先生(早稲田大学教授)

今年度行われた講演会の中から相模原の段丘地形についてのお話をとりあげ、要点のみ列挙します。

1. 身近な地形

「原」と呼ばれる平らなところと、当麻坂や八景の棚などの「坂」の部分が何度かくり返すのが相模原の地形の特色です。

2. 相模野台地は「段丘地形」の見本

相模原の段丘地形は全国的に知られています。「原」の部分を段丘面、「坂」の部分を段丘崖と呼び、段丘面が階段状に並んでいます。この段丘地形は相模川がつくったものです。

(1) 相模原面

相模原の中心部(橋本、相模原、古淵、麻溝、大野など)に広く分布しています。標高は橋本駅 140m、相模原駅 115m、古淵駅 105m 位で、北西から南東へ向かって次第に低くなっています。

(2) 田名原面

相模原面の一段下にあり、相模線の上溝、番田、原当麻あたりに分布しています。標高は上溝 100m、番田 90m、原当麻 75m 位で相模原面同様南東に向かって低くなっています。

(3) 陽原面(みなばらめん)

田名原面の一段下にあり、塩田や無量光寺あたりが陽原面となります。標高は塩田で 80m、無量光寺が 50m 位です。

3. 崖で見える地層

段丘をつくる構成物は崖のところで見ることができます。上から黒土、赤土(関東ローム層)、礫層の順に並びますが、赤土の厚さに違いがあります。

(1) 相模原面(相模原段丘)

下溝の大正坂では、一番上に黒土、その下に 15m 程の赤土が見えます。赤土の中に黄色っぽい地層(東京軽石)や黒いザラザラした地層(スコリア)が見られます。また古淵近くの境川の崖にも厚い赤土とその下に礫層を観察できます。

(2) 田名原面(田名原段丘)

当麻の無量光寺の裏の崖で見られます。上から黒土、赤土(5m 程)、礫層の順に並んでいます。

(3) 陽原面(陽原段丘)

磯部の崖に黒土と赤土併せて 2m 程の層があり、その下に礫層が出ています。

4. 赤土(関東ローム層)の正体は何？

(1) 富士山や箱根山などの火山灰

赤土を顕微鏡で見ると、火山由来の角の取れていない鉱物を多数含んでいて、火山の爆発で飛んできた富士山や箱根山などの火山灰であることがわかります。

(2) 東京軽石

関東ローム層中の黄色い帯の粒を調べると、箱根に向かって段々大きくなります。これは６万～７万年前に箱根山が噴火した時の火山灰で「東京軽石」と呼ばれています。

(3) 姶良(あいら)火山灰

２万 9000 年～３万年位前鹿児島湾の爆発で噴出した火山灰が全国に降下し、火山の地名をとって姶良火山灰と命名されています。相模原面や田名原面で確認できます。

(4) 富士相模川泥流

田名山王坂沿いの崖には大きな石がごろごろしていて、その下に黒っぽい地層があります。これは２万年前頃富士山の噴火で出てきた土砂が水と混ざり合って相模川を流れてきた堆積物です。陽原面の地層に見られます。

5. 相模野台地を刻む川、相模野台地の凹地

境川・鳩川・姥川・道保川等の小河川は、わき水を集めて流れています。それぞれの川は谷の深さや幅に大きな変化がなく上流から下流まで流れている不思議な川です。

相模原面に鹿沼や大沼、小沼、デイラクボなどの凹地があります。大沼ではローム層中に水を通さない粘土質の層があり、その上に地下水が貯まっています。地下水が浅く、昔は水田に利用されていました。

6. 相模野台地の「大地の歴史」

雛段状の地形は、地球規模の気候変動や海面変化が河川に影響を与えてできたと考えられています。

相模川の下流部では段丘が地上では見えなくなりますが、地下に段丘の続きが見つかっています。これはかつての海面が現在より下だったことを物語っています。

それぞれの段丘の年代測定は関東ローム層の構成物から知ることができます。相模原面は８万～ 10 万年程前に相模川がつくった扇状地で、その後この面に川が流れなくなり火山灰が 15m 程積もっています。

田名原面は３万～４万年前に相模川がつくった扇状地で、その後川の流れが変化し扇状地の上に火山灰が積もっています。

陽原面は１万～２万年前に相模川が流れていて、その後流れが変わり残された面に火山灰が薄く堆積しています。この時代は最寒冷期で海面が下の方にあったため、相模川の勾配が急でした。田名向原遺跡はこの時期に営まれた遺跡です。